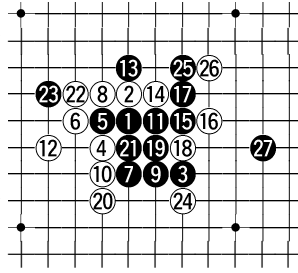


遊星ガイド (3)

九段 河村典彦

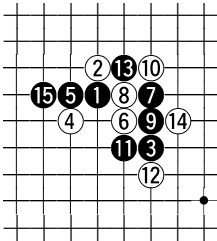
第18図



【第18図】今回の白4ぐらいから、だんだん遊星特有の防ぎが現れてくる。この4は流星に戻るので、流星からも行けてお得な形である。この4に対して何題可能かと言うと、極端に言えば一題でも八題でも可能である。実際には相手の顔を見て提示すればいいだろう。順にそれぞれの黒5の打ち方を調べていきたい。まずは黒5と打つ手が有力だ。これで雲月桂馬掛りの防ぎに戻っている。

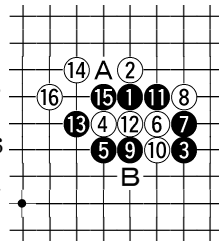
対して白6と欲張るのは、黒7で白は困っている。白8でうまそうに見えるが、黒9、11が絶妙の反撃策。これで白の引き筋がけん制されている。白12なら黒13が含み手となっている。

第19図



【第19図】白6は譜のように防ぎに行く方が強防となる。黒7ではいろいろ考えられるが、局面を打開するには黒7から引くのがいいだろう。しかしこれも、黒11と単に打つしかないの勝ちは至らない。白14までに黒15と突き出して左辺に新天地を求めることになる。白10を反対なら、今度は14に固まっておく。

第20図

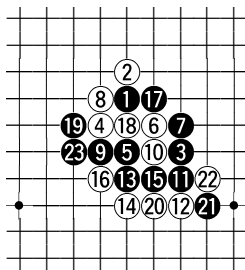


【第20図】黒5と外側から叩いておくのは黒としても安心感がある。白6でAと打てば何と流星の強防に戻っている。もちろんこの手を選んでもいいのだが、それ以外の手を調べてみよう。やはり白6と割り込む手が強そうだ。対して黒7から白10までのやり取りは自然だろう。黒11はあまり気が乗らない手ではあるが、急所に一本打っておかないと

後々困る。白16までなら白が有利だろうが、黒7でBと打つ手がチム世界戦で中国の曹冬が打った手で、今後注目の一手法。

【第21図】黒5の変化。実はこの手が一番しつかりしているので、五珠の候補からは外せないだろう。やはり白6と割り込んでおくのが最強防となる。黒7と打って好調の

第21図

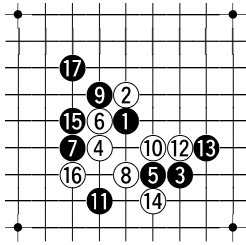


ようだが、白8がうるさい一手となる。これには右辺の厚みを生かして防いでいく必要がある。黒11、13と打ち、手順に黒15を利かせておく。黒17、19と厚みを生かして防ぎに回り、黒23まで確実に白の勢力を消しておけば互角の展開だろう。黒を19と叩く手もある。

なお、白12を反対なら、黒19に押さえておく。

【第22図】黒5の変化。形的には水月、山月と共通であるが、おそらくこの形はこれまで検討されたことはないだろう。黒3に近い黒5の場合、たいてい白6とその一路上の9が強防となる。この2つを押さえておけば問題ない。

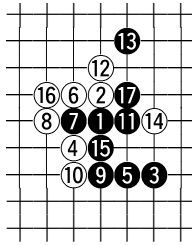
第22図



【第22図】白6がもう一つの強防となる。ただ、この手には黒7と突っ込んでおいてよい。白8なら黒9、11と打って第18図に戻っている。それならば、第18図と違う変化をやっておこう。

この6は強防で、通常はこれで参っているのだが、黒には9という切り札があるため、たいていの黒5が対応できる。これが八題も可能という理由である。黒7と変化をしたが、結局は黒9、白10と打って同じ形になる。黒11はいかにも急所で、ここに打って長い戦いに持ち込むのが実戦的だろう。

第23図

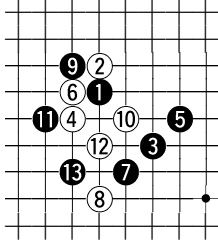


【第23図】白12とこちらに引いても黒13と止めておいてよい。白14と止めたとしても、黒15、17で白は防ぎがない。突っ込んでおいてよい。白8なら黒9、11と打って第18図に戻っている。それならば、第18図と違う変化をやっておこう。白12とこちらに引いても黒13と止めておいてよい。白14と止めたとしても、黒15、17で白は防ぎがない。

【第24図】続いて黒5が成立するか見てみよう。白6を9なら流星に戻るので、白6さえ調べればこの5が打てるかどうか分かる。

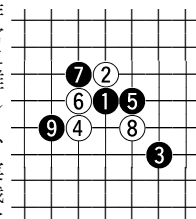
黒11までは一本道だが、途中で黒7と一本引いているのが工夫である。これを打たないと、白に先着されて黒が不利になる。

第24図



【第24図】白12には黒13と下から叩いておく。白12には黒13と下から叩いておく。白12では上から叩くのは、白14で13に含み手を打たれてまずい。黒も白も長期戦を覚悟する必要があるだろう。したがって、この5も打てそうだが。

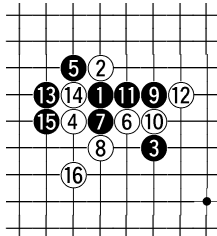
第25図



【第25図】最後のこの5を調べておこう。これで8か所目となる。いきなり切り札を使ってしまうのはもったいないが、結局打つことになるので可能性はある。黒7と突っ込んで黒は防ぎに回る展開となる。

白8は当然で、黒9とこちらから叩いて白に攻めさせるのが良いだろう。白は挑発に乗らず10と防ぐのが冷静で、いざれ攻めが回ってくる。黒15までの時、白16と突き出して下辺での攻防が勝負となる。

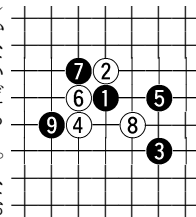
第27図



【第27図】最後はこの5を調べておこう。これで8か所目となる。いきなり切り札を使ってしまうのはもったいないが、結局打つことになるので可能性はある。黒7と突っ込んで黒は防ぎに回る展開となる。

黒は他にも打てる場所があると思うが、研究していると思わせて流星に戻す手もあり、戦術も大事になるだろう。何しろまだ研究が進んでいない珠型であるので、研究の余地も大きい。

第26図



【第25図、26図】この2つの五珠は、白6と打たれて黒7、9と打つしかない形で、似たような形となる。ここからどう展開していくか